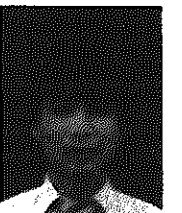


市民談話室



「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由。あなたの周りの最近の出来事、ふだん思っていること、市に対する意見など、堅く考えず気軽に投稿してください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画課広報広聴係です。



二見義隆さん（四ツ野野・会社員・48歳）
にぎわった夕市夜店
地域おこしに乾杯!

先日の本町通り・一の町から四の町までの夕市は、ひさかたぶりのにぎわいで、表通りに敷いたゴザの上で飲んだビールの味は格別でした。

近年のモーターゼーションは町の境界を越えて都市間競争を生みました。特に中核都市では大型店の立地が相次いでいるため、周辺の中小都市では購買人口が流出し、地元の商店(街)は地盤沈下が激しくなっています。都市間競争に敗れば、住んでいる人はいても商店(街)は最寄り品中心で日曜日は休業という寂しい状態になってしまおう。白根市でも、生活の楽しさ、人と人の触れ合いを感じさせる商業空間をつくり出すことが最



迷わず「酒を出しません!」
地域ぐるみで飲酒運転を追放
 茨城県地区公民館長
関根喜八郎さん（丸湯 農業 60歳）

飲酒運転で交通事故を起こしてからよく言われることは「酒を飲まなければ」「車で宴会場に行かなければ」「酒を出さなければ」「事故を起こさずすんだのにな……」

私たちの地区では、大きな事故に結び付く飲酒運転を追究するために、各団体の皆さん五十人くらいが集まって話し合いをしました。

飲酒運転が悪いことはわかっていても、なくす方法は難しい。どの地区でも言われると思います。ですが、部落内の集会所での酒。「家が近いから」「農道を通って帰るから」と、ついつい車を運転してしまおう。これらをなんとかなくそうと、小学生の皆さんから飲酒運転追放の標語を募集して部落の集会所に掲示し、明るい家庭をつくるためにもお

いに顔見知りであるような小さな地域で、モノを媒介とする関係と、目に見えないきずなで結ばれた関係の中で成立したもののことを考えると、町の活性化のために情勢を燃やす複数のリーダーを、今こそ必要としているのではないのでしょうか。すばらしい触れ合いの町となることを切に願っています。

父さんやお母さんがたから協力してもらおうことになりました。特に難しいことは、車で訪れた客への酒の接待です。「酒を出さなければ来客に失礼なのではないか」「出せば事故に結び付く飲酒運転をするのではないのか」などと、出してよいのか悪いのか、お母さんがたはいちばん苦しむとのこと。そのため各家庭の来客の見える所にも「私の地区では車の運転者には酒を出しません!」とのチラシを掲示しています。来客者を交通事故から守るためですので、他地区から訪れる人にも理解をお願いしたいと思っています。

これらの運動が一つの地区だけでなく市全体に広がれば、この運動の効果が出るのではないかと思います。

市民文芸

俳句
 減反にまた減反の音田判り 玉木 長吉
 夏場所をテレビ見ながらプランデー 大塚 豊治

川柳
 物忘れそれから老いの第一歩 岡村 清
 定年の財布が重くてゆく初秋 織田 セツ
 怪談で涼しく過ごす熱帯夜 後藤マサノ
 壁立てて新人類の寝どなる 佐藤トミノ
 六十過ぎて健忘症を武器にする 佐藤 ヨキ
 養身具にする肩書が高く付き 高橋祐四郎
 蚤の夫婦どこかでバランスをとっている 竹石 甚五
 転た寝て母の名を呼ぶ父の夢 田中 成子
 出世頭が上座を占める同級会 田村 恒夫
 世界地図枕に独裁者の眠り 長井 徳市



昔、天領だった
根岸の最南端「五十嶋」
荒木 宏さん（和泉・農業・65歳）

大字根岸の最南端、中部排水機場の付近を「五十嶋」と言い、昔は味方村吉江の一部だったと伝えられています。文禄四年（一五九五年）検量され、豊臣秀吉公から溝口秀勝公が賜った検地帳によると「東吉江村八十七石二斗六升」となっています。

元禄八年（一六九五年）には吉江村と吉田新田が幕府直領となりました。以来、脱藩した落ち人たちの逃げ場であったといわれ、現在の中部排水機場付近には掘り立て小屋が設けられ、とばく場になっていたそうです。根岸の大矢武さん宅にある寛文九年（一六六九年）の文書に「越後之國蒲原郡弥彦荘中之口



よもぎ健康法
お試しになってほしいかが?
武田順子さん（和泉・農業・30歳）

よもぎの栄養成分は一〇〇g中、タンパク質が七・七g、カロチンが三・六gとにんじんの倍近くもあるそうです。草もちだけにしか使えないと思っていたよもぎが、料理のしかたでいろいろおいしく食べられました。特に苦葉のころがおいしかった。便秘にもいいし、ビタミンB2や

Cなども含み、風邪をひきにくくなったみたいです。▽天ぷら：①さつとお湯に入れてアク抜き（塩一つまみ）②水を切った紙にはさんで水分を取る ③小麦粉と卵、昆布の粉（ミキサーで粉末にしたもの）をつけてカリッと揚げる▽ごまあえ：①ゆでてアク抜き

之口吉江村」と記されています。これらのことから「五十嶋」は天領（幕府直領）で、吉江村の一部だったと推察されるのです。現在「五十嶋」の地名は数筆を残すのみで、小字もない俗称地名として語り継がれています。が、天領にまつわる話はありません。言い伝えられていないようです。

（塩一つまみ）②黒ごまをすって③みりん、しょうゆ。それに少し強いよもぎの香りを消すため、黒砂糖を混ぜる▽おひたし：①ごまあえと同じしょうゆ、かつお節を食べる このほか、よもぎマツトや枕は、神経痛、リウマチ、冷え症、不眠症などにとてもいいそうです。よもぎマツトを神経痛で苦しむ実家の親にプレゼントしたら、足の調子がよいと喜んでくれました。痛い所に巻いているそうです。

▽よもぎマツト：使わなかったさらしのおしめにファスナーを付け、中によもぎの葉をカラカラになるまで干して詰める。ファスナーは稲刈り時のコンパインの袋に付いていたのをとっておいしたものを使いました。中のよもぎが古くなったら、ために取り替えられ洗濯も簡単です。

グループ紹介⑭

白根柔道倶楽部



毎週火・金曜日けいこに励む子供たち

倶楽部が結成されたのは昭和5年で、結成や運営に力を尽くされたのが吉川文一さん（故人）と若槻教林さん（故人）です。以後五十有余年の伝統を守り、今も毎週火曜日と金曜日に、教育委員会の道場でけいこに励んでいます。

会員は一般の部8人、少年の部20人（男17人、女3人）で、少年の部は昭和50年に結成。指導者は小林文七郎会長を筆頭に荏原英衛さん、大久保正義さん、平山栄一さんの四人が中心で、けいこには父兄同伴で参加。子供たちは父兄の見守る中で汗を流します。苦しい表情を見せながらも先生に向かって行く子供に、父兄から「がんばれ」の声援が飛びます。

本年7月19日、新潟市で開かれた第1回県少年柔道学年別選手権大会で小林ナナ子さん（みの口・6年生）が2位に入賞するなどけいこの成果が確実に上がっています。小林会長は「最近小林地区から入会があり活気づいています。伝統を守り、ますます発展させたい」と話しています。倶楽部に入りたい人は、小林会長（みの口・☎373-3426）へどうぞ。

会員の声

大久保 明さん（四ツ野・6年生）
 クラブには1年生から入っています。けいこは苦しいけれど毎回来ます。4年生のとき市民総合スポーツ大会で優勝したのがうれしかったです。これからもお父さんやお兄さんに負けないようがんばります。けいこのとき厳しい先生も、けいこ以外では魚釣りなどに連れていってくれたりします。

短歌
 運動会大なわとびの記録おこす チームに送る拍手は止まず 中村 京

担ぎ手は先ず減税のプラカード 中村 尚治
 喪の帯を解けば疲れがどつと出る 西条 ムラ
 人生の先を見透かす占い師 野内熊太郎
 核の無い空を平和の鳩が翔ぶ 早川 英男
 母の日に母を酔わせている梅酒 山岡 フミ
 忘れたい傷に他人は触れたがり 吉川 彰
 ヘソクリが子の欲しがった物に化け 吉川 末吉
 酒止めて平均寿命まで生きる 米野 光雄
 秋風が凍む瘦身のキリギリス 今井 七郎